

私の一冊

社会福祉学科 江原勝幸 先生

田淵義雄著 『森暮らしの家:全スタイル』

小鹿図書館 : 527/Ta 12 (小学館)

よく「あなたの好きな作家は？」って聞かれることがありますよね。一般的には、夏目だったり、芥川だったり、太宰だったり、著名な作家の名前が出てくるものですが、皆さんはどうか？必ずしも有名でない作家をお気に入りとして、その有名でないことを自己満足的に楽しんでいる天邪鬼的な人も結構多いかもしれませんね。ここで皆さんに紹介する作家の名前を聞いて、「へえ、先生も彼の作品が好きなんだ。私も結構気に入っている人なんですよ」と答える人にまだ一度も出会ったことがありません。間違いなく「タ・ブ・チ…(って誰)？」と怪訝そうな顔をされます。一部のアウトドア志向の人々、特に彼はフライフィッシング、キャンプ、ガーデニング、ウッドクラフト、ウッドバーニングストーブなどの分野で第一人者なので、この分野の愛好者・実践者にとっては、彼を崇拜する人は少なくないのですが、知名度はとても低い作家です。そんな彼の著作の中から「私の一冊」を紹介します。本自体が大きく、一見すると写真集という印象をもたれるかもしれませんが、彼の美しい家や庭、使い込まれた道具や家具の写真とともに極上のタブチ・ワールドが堪能できる文章が存在感を示しています。

彼のどちらかという都会的で、リズム感のある少し乾いた感じの彼独特の文章に出逢ったのは20年以上も前。それこそ星の数ほどの作家の中で、彼の名は「私の好きな作家ナンバー1」の座を守り続け、多分、これから20年以上の先もそれは変わらないはずで(ちなみに、私の好きな邦画ナンバー1は宮崎駿の「ルパン三世 カリオストロの城」でこれも不動)。大げさにいえば、今は長野県川上村の寒山の麓に静かに暮らす彼の言葉によって人生が大きく方向づけられたひとりと言っても過言ではありませんし、彼の言葉はなおも力強く生き続けています。例えば、「人は自分の好きな場所に住んでいい」という言葉。若い頃は、そんなこと言っても、仕事も家庭もあってそんな簡単に好きな場所に住むことなんてできないとさすがに反発した覚えがあります。しかし、実際に高山の麓に根を下ろし、自給自足的にシンプルに暮らす彼は(確かに俗に言う「田舎暮らし」には違いないけれど、彼のライフスタイルには野暮った過ぎる言葉。彼にはこの本の英語タイトル「Cold Mountain Living Style」のような英文が実に似合う)、都会の華やかさとは全く逆の厳しく孤高の土地で、堅実的で機能的な暮らしを実に美しく豊かに実践している様子を余すところなくこの本の写真や文章で示しています。そこに、彼なり

のメッセージの数々に潜む「哲学」が存在することを後になってわかるようになりました。その土地を愛し、そこで暮らす人々を愛し、それを支える道具や技術を愛し、家族や自分自身を愛することの大切さは普段あまり考えないことですが、当たり前のことが実はとても大事なことであるということを示しているのだと思います。

でも、この本は滅多に開きません。開くのがなんだかもったいないなんて考えること自体変ですが、本棚の所定の場所にあることが大事な本です。そして、開くのは必ず妻や子どもたちが寝静まった深夜。極上のシングルモルトのロックを片手に、ビル・エバンスのスタティックなピアノを静かに流して。ただなんとなく彼の手作りの暮らしとそれを支える道具や自然を映す写真や文章に囲まれるその時間がとても愛しいから。本棚の背表紙を眺めているだけでも幸せな気分させられ、いつか、きっと、どこかの森の片隅で、彼のような暮らしができればという憧れや希望を与えてくれる心温まる本です。皆さんも日ごろの勉学に疲れ、「本当の豊かさ」や「地に足が着いた暮らし」とは何かについて考える時にでも、彼らしいシンプルで確かな言葉がちりばめられたこの本をどこかでひとり静かに開いてみてください。きっと皆さんの心の中にもナチュラルリスト「田淵義雄」の言葉が刻まれることでしょう。